

事後評価調査(案)

I 事業概要																																																																																							
事業名	漁港漁場事業(漁港修築事業)																																																																																						
地区名	赤羽根漁港																																																																																						
事業箇所	田原市																																																																																						
事業のあらまし	<p>赤羽根漁港は、渥美半島中央部の太平洋に面した位置にあり、遠州灘で操業する漁船をはじめ、沖合いを航行する船舶への、県内唯一の避難港としての役割を担う第4種漁港である。赤羽根漁港の沖合いを始めとする渥美半島沖の遠州灘は、しらす・えび類などの好漁場であり、各種漁船が1年を通じて操業しており、渥美外海漁場の根拠地として整備されている。</p> <p>本事業は、港内静穏度の向上を図るとともに、作業の安全性の向上、労力の軽減を図ることを目的とし、防波堤、航路浚渫、浮棧橋の整備を計画し、平成14年度に着手して平成23年度に完了した。</p>																																																																																						
事業目標	<p>【達成(主要)目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港内静穏度の向上 ・作業の安全性の向上、労力の軽減 <p>【副次目標】</p> <p>-</p>																																																																																						
事業費	事業費		内訳																																																																																				
	9.2億円	■工事費	9.2億円	□用補費	億円	□その他	億円																																																																																
事業期間	採択年度	平成14年度	着工年度	平成14年度	完成年度	平成23年度																																																																																	
事業内容	防波堤:L=150m 航路浚渫:A=34,000m ² 浮棧橋:N=1基																																																																																						
II 評価																																																																																							
①事業目標の達成状況	1) 主要目標の達成状況	<p>【達成状況】</p> <p><港内静穏度の向上></p> <p>防波堤の整備とともに航路浚渫を実施することにより航路の静穏度が向上したため、操船上出漁が困難な日数が減少し、出漁可能日数が増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出漁可能日数 190日/年 → 201日/年 (漁協ヒアリング) <p>荒天時には港内の静穏度が確保できないため、漁船の事故や故障等を回避するためにクレーンによる船揚げを実施していたが、整備後は、船揚げ作業が解消された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船揚げ回数 1回/年 → 0回/年 (漁協ヒアリング) <p><作業の安全性の向上、労力の軽減></p> <p>漁業者へのヒアリングの結果、事業の実施により漁業作業の安全性が向上し、労力の軽減が図られたとの回答が得られた。労働環境調査チェックシート(水産庁ガイドラインより)により評価すると、Bランク(過重労働)からCランク(通常作業)へと改善された。</p>																																																																																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>評価指標</th> <th>ポイント</th> <th>整備前</th> <th>整備後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">危険性</td> <td rowspan="4">発生頻度の</td> <td>a 作業中の病気等が頻発している</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>b 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある</td> <td>2</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>d 事故等が発生する危険性は低い</td> <td>0</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">内容等の</td> <td>a 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>b 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等</td> <td>2</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c 通院不要で数日で完治するようなごく軽いケガ</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>d 事故等が発生する危険性は低い</td> <td>0</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>危険性 小計</td> <td>0~6</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">作業環境</td> <td>a 極めて過酷な作業環境である</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>b 風雨等の影響が比較的大きい作業である</td> <td>3</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c 風雨等の影響を受ける場合がある</td> <td>1</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>d 当該地域における標準的な作業である</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">重労働性</td> <td>a 肉体的負担が極めて大きい作業</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>b 肉体的負担が比較的大きい作業</td> <td>3</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c 肉体的負担がある作業</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>d 通常の作業と同等程度の肉体的負担</td> <td>0</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>評価ポイント 計</td> <td></td> <td>10</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>Aランクの条件: 評価ポイント計16~13ポイント Bランクの条件: 評価ポイント計12~6ポイント Cランクの条件: 評価ポイント計5~0ポイント</p>			評価指標	ポイント	整備前	整備後	危険性	発生頻度の	a 作業中の病気等が頻発している	3			b 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2	○		c 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1			d 事故等が発生する危険性は低い	0		○	内容等の	a 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3			b 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2	○		c 通院不要で数日で完治するようなごく軽いケガ	1			d 事故等が発生する危険性は低い	0		○			危険性 小計	0~6	4	0	作業環境	a 極めて過酷な作業環境である	5			b 風雨等の影響が比較的大きい作業である	3	○		c 風雨等の影響を受ける場合がある	1		○	d 当該地域における標準的な作業である	0			重労働性	a 肉体的負担が極めて大きい作業	5			b 肉体的負担が比較的大きい作業	3	○		c 肉体的負担がある作業	1			d 通常の作業と同等程度の肉体的負担	0		○			評価ポイント 計	
		評価指標	ポイント	整備前	整備後																																																																																		
危険性	発生頻度の	a 作業中の病気等が頻発している	3																																																																																				
		b 過去に作業中の事故や病気等が発生したことがある	2	○																																																																																			
		c 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される	1																																																																																				
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		○																																																																																		
	内容等の	a 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	3																																																																																				
		b 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	2	○																																																																																			
		c 通院不要で数日で完治するようなごく軽いケガ	1																																																																																				
		d 事故等が発生する危険性は低い	0		○																																																																																		
		危険性 小計	0~6	4	0																																																																																		
作業環境	a 極めて過酷な作業環境である	5																																																																																					
	b 風雨等の影響が比較的大きい作業である	3	○																																																																																				
	c 風雨等の影響を受ける場合がある	1		○																																																																																			
	d 当該地域における標準的な作業である	0																																																																																					
重労働性	a 肉体的負担が極めて大きい作業	5																																																																																					
	b 肉体的負担が比較的大きい作業	3	○																																																																																				
	c 肉体的負担がある作業	1																																																																																					
	d 通常の作業と同等程度の肉体的負担	0		○																																																																																			
		評価ポイント 計		10	1																																																																																		
		<p>【達成状況に対する評価】</p> <p>本事業により、港内静穏度の向上、作業の安全性の向上、労力の軽減が図られ、事業目標を十分達成していると言える。</p>																																																																																					

2)	副次目標の達成状況	【達成状況】 - 【達成状況に対する評価】 -																																								
② 事業効果の発現状況	【費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化】																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>事業採択時 (H14年)</th> <th>実績 (H27年)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">事業期間</td> <td>H14～H18</td> <td>H14～H23</td> <td>公共事業の 予算削減</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">事業費 (億円)</td> <td>工事費</td> <td>13.5億円</td> <td>9.2億円</td> <td>浚渫費の減</td> </tr> <tr> <td>用地補償費</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>13.5億円</td> <td>9.2億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">効果の 算定 要因</td> <td>年間出漁日数</td> <td>190日/年</td> <td>201日/年</td> <td>1割増</td> </tr> <tr> <td>荒天時船揚げを行っての作業日数</td> <td>1日/年</td> <td>0日/年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>労働環境</td> <td>Bランク</td> <td>Cランク</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				事業採択時 (H14年)	実績 (H27年)	備考	事業期間		H14～H18	H14～H23	公共事業の 予算削減	事業費 (億円)	工事費	13.5億円	9.2億円	浚渫費の減	用地補償費	-	-		その他	-	-		合計	13.5億円	9.2億円		効果の 算定 要因	年間出漁日数	190日/年	201日/年	1割増	荒天時船揚げを行っての作業日数	1日/年	0日/年		労働環境	Bランク	Cランク	
			事業採択時 (H14年)	実績 (H27年)	備考																																					
	事業期間		H14～H18	H14～H23	公共事業の 予算削減																																					
	事業費 (億円)	工事費	13.5億円	9.2億円	浚渫費の減																																					
用地補償費		-	-																																							
その他		-	-																																							
合計		13.5億円	9.2億円																																							
効果の 算定 要因	年間出漁日数	190日/年	201日/年	1割増																																						
	荒天時船揚げを行っての作業日数	1日/年	0日/年																																							
	労働環境	Bランク	Cランク																																							
【事業期間に対する評価】 公共事業の予算削減の影響を受け事業費を十分確保できなかったため、事業完了は当初の平成18年度から平成23年度に延伸した。																																										
【事業費に対する評価】 航路浚渫した砂を隣接する侵食海岸に撒き出して、処分費の削減を図ったことなどにより、全体事業費は計画の13.5億円から9.2億円に減額した。																																										
【効果の算定要因に対する評価】 本事業の整備により、年間の出漁日数が約1割増加し、荒天時のクレーンを使用した船揚げ作業が無くなった。また、労働環境は1ランク改善された。 漁業者へのヒアリングにおいても、出漁を見合わせる事が減少したことや、浮棧橋の整備により、陸揚時の労力が軽減されたとの回答を得ており、一定の整備効果があったと言える。																																										
環③ 事業実施による変化	本事業の実施による周辺環境への影響は特にない。 航路浚渫土砂を隣接する侵食海岸へ撒き出したことにより、汀線の回復が図られた。																																									
Ⅲ 対策方針																																										
今後の事後評価の必要性	事業目標が達成されているため、今後の事後評価の必要性はない。																																									
改善措置の必要性	事業目標が達成されているため、改善措置の必要性はない。																																									
同種事業に反映すべき事項	浚渫土砂を侵食対策や干潟・浅場造成等の用材として活用すれば、事業費の削減とともに環境改善効果が見込まれる。																																									
Ⅳ 事業評価監視委員会の意見																																										
Ⅴ 対策方針																																										